

JIC インフォメーション

第214号 2021 年 04 月10 日

年 4 回 1・4・7・10 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪・ロシア留学デスク: 〒540-0032 大阪市中央区谷町 2-7-4 谷町スリースリースビル 7 階 TEL: 06-6944-2341

はりねずみのジェーニャ



ロシア・旧ソ連

国際交流誌


<http://www.jic-web.co.jp>

(写真) 右上＝銀座にできた「赤の広場」(4 頁)、右下＝ヴォルガ川船の旅(9 頁)、左下＝ハバロフスク氷の彫刻(3 頁)、左上＝ウラジオストクの浦潮本願寺跡碑と桜(14 頁)

《お知らせ》 ジェーアイシー旅行センターの代表交代
好奇心と勇気をもって新しい一歩を踏み出す
……………杉浦 信也……2P

《JIC オンライン旅行イベント報告》
行った気になるウラジオストクとハバロフスク……………小原 浩子……3P

《ロシア情報》
銀座にできた「赤の広場」……………岡本 健裕……4P
ロシア伝統の味「スピテン」(ハーブと蜂蜜)……………6P

《本の紹介》 ポリショイ秘史
帝政期から現代までのロシア・バレエ(1)……………加藤 裕理……8P
ロシア映画を勉強する会 8 周年記念文集……………9P

《投稿》 ヴォルガ川 船の旅……………村井 淳……9P
キルギスに暮らす(1) ゴスチ……………倉谷 恵子……11P

《講演録》 日本・ウラジオストク協会 懇談サロン
浦潮本願寺跡碑が建立されて、さくらの花が咲くまで
……………藤本 和貴夫……14P

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会)会員を募集しています。
年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

ジェーアイシー旅行センター 代表取締役交代のお知らせ

1986 年 4 月の会社設立以来代表を務めてきた伏田昌義は 2021 年 3 月 24 日の株主総会をもって代表を退任し、この度、杉浦信也がジェーアイシー旅行センター株式会社の代表取締役に就任いたしました。当初は昨年 3 月に代表取締役を交代する予定で準備を進めておりましたが、新型コロナの影響により 1 年間遅れました。コロナの終息までまだまだ時間がかかりますが、杉浦を先頭に社員一丸となって会社の維持・発展に取り組みます。

皆様のご指導、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

なお、伏田は引き続き取締役にとどまり会社運営に携わると同時に、国際親善交流センターの日ロ交流活動にも力を注ぐ予定です。重ねてよろしくお願いいたします。

2021 年 4 月 10 日

ジェーアイシー旅行センター株式会社

代表取締役 杉浦 信也

取締役 伏田 昌義



好奇心と勇気をもって、 新しい一歩を踏み出す

杉浦 信也

この度、ジェーアイシー旅行センターの代表取締役に就任いたしました杉浦信也と申します。

国際親善交流センター(JIC)は 1982 年結成。その旅行局として 1986 年より旅行会社の活動を開始して早や 40 年余り。ソ連そしてロシアとの交流や旅行事業をこの間一貫して続けて参りました。

私が入社したのは 1987 年になりますが、ソ連邦崩壊や新生ロシアの混乱とその後の発展など現在までに大きな変化がありました。にもかかわらずここまで活動を継続できたのは、時代の変化に合わせ、ソ連時代からロシア語私費留学生の派遣事業やホームステイ交流、そして日本へのインバウンド事業などに果敢に取り組んできたことに対し、皆様から少なからぬご支援をいただけてのことでした。

現在、コロナ禍で旅行業は苦難の時期にあります。しかし、この間にもオンラインでの留学相談や旅行イベントの実施、インバウンド部にあっては日本の現状を紹介する海外向け動画配信、さらにはロシアからのスピテンの輸入販売事業の開始など、この時期だからこそ可能となった課題に取り組むことができました。この間に得た新しい経験や知識を生かし、ポストコロナ後も絶えず好奇心と勇気をもって、これまで私どもを支えてくださった皆様と、そして信頼する JIC スタッフとともに、新しい一歩を踏み出していければと思います。

今後とも何卒、JIC の活動に対するご理解、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

ジェーアイシー旅行センター株式会社 代表取締役

JICオンライン旅行イベント報告

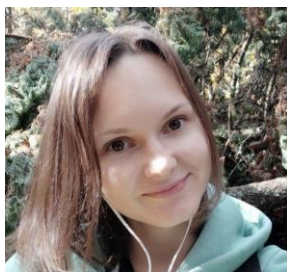
現地係員の案内で行った気になる ウラジオストクとハバロフスクの旅

小原 浩子 (JIC 大阪)

3月13日(土)、13:00の開始時間を3分ほど過ぎたころ、「本日はジェーアイシー旅行センターのオンラインイベント『現地スタッフとお届けする、行った気になるウラジオストクとハバロフスク』にご参加ありがとうございます。司会の小原です」と、私は自宅の一室からパソコンの画面に向かって笑顔を作って呼びかけました。JIC 初のオンライン旅行イベントのスタートです。

13:00 ちょうどに参加人数を見たところ 160 人程度。申込みは 250 名あったので「このまま開始していいかしら」と迷ったのが、開始宣言が 3 分遅れた原因です。無料のイベントはやはり欠席率も高いようです。が、Zoom 会議室にはその後もどんどんと入室があり、イベント開始 15 分後には 180 名を超えて入退室が安定してきました。

申込時のアンケートでは、参加者は女性が 3 分の 2 程度、40～50 代の方が少し多いものの 20 代から 70 代まで全ての年齢層の方が申し込んでくれていました。



クセーニアさん

まずはウラジオストクの紹介。ウラジオストクの現地連絡員のクセーニアさんが、撮影した動画を見せながら説明をしています。2 月に撮影された冬のウラジオストクの映像で、天気はよいですが

動画中に風の音が聞こえて少し

寒そうです。ウラジオストク空港での到着時の映像から、市内に向かう高速道、そしてウラジオ市内での街歩きの様子を見せながら、クセーニアさんが JIC スタッフの質問に答えていきます。海鮮レストランやブリュイ・カフェの映像もありました。

最後はウラジオストクの夏の写真と映像が流れ、明るい陽射しの緑の街並みに、こんな時期に行けたらいいのにと思わずにはいられませんでした。郊外列車の映像や、市内を一望できる展望台に行くケーブルカーの映像も、なかなか見られないもので、参加者の興味をひいたようです。

チャットで質問する人が出てきました。そのたびに参加者で現地をよく知った人や JIC スタッフが回答を返しており、反応が早くて好評でした。

次は、シベリア鉄道でウラジオストクからハバロフスクに移動することを想定して、鉄道駅と列車の紹介です。ハバロフスクの



ハバロフスクの氷の彫刻展

現地係員ダーリアさんは何度もウラジオストク・ハバロフスク間の夜行列車オケアン号に乗車しているだけあって、車内の設備など詳しく知っていました。各車両の車掌さんの部屋でお土産販売をやっていることなども伝えてくれました。



ダーリアさん

ハバロフスクを紹介する映像はダーリアさんの声が入った動画でした。ウラジオストクの動画は映像には声が入っておらず、上映時にその場で話してもらったのですが、ハバロフスクの動画

は彼女がガイドをして実際に市内

を巡る作りになっていました。個人旅行でガイドをつけずに旅行されている方には、この説明がとても新鮮に映ったようで、アンケートには「ガイド付きツアーも面白いのかもしれない」との感想がありました。また、ダーリアさんは私からの質問にもきちんと答えてくれたので、十分なライブ感もありました。

氷結したアムール川は寒そうでしたが、おいしそうな食事やロシアのお土産のお買い物案内、この時期にしか見られないハバロフスクの氷の彫刻展など、ハバロフスクの魅力が十分に伝わったと思います。

当初はせいぜい 50～60 名程度の参加と予想していた今回のオンラインイベントですが、180 名以上の方に参加していただけたことは、本当に嬉しい驚きでした。アンケートではテクニカルな面での厳しい指摘もありましたが、以前ロシア旅行を手配したお客様からの温かい励ましの言葉や感想などもいただいて、皆さんが JIC のことを気にかけてくださっているのだとありがたく思いました。新型コロナが終息するまではまだまだ海外旅行が難しい状況が続きますが、今後もこのようなイベントを通してロシアファン & JIC ファンを作っていくことができればと思います。

初のオンライン旅行イベントを成功させるために協力していただいた全ての皆さん、現地連絡員のお二人と JIC の同僚スタッフに感謝してこの報告を締めくくります。

(ジェーアイシー旅行センター株式会社 西日本地区営業部長)

銀座にできた「赤の広場」

岡本 健裕 (JIC 東京)

みなさんこんにちは、日々の食生活にロシア成分は足りていますか？ 黒パンがほしい、グレーチカが食べたいと嘆いていませんか？ そんな私達に待望のお店が今年 2 月、東京にできました。その名も「赤の広場」。本当にロシア直輸入のお菓子や食料品が買えるというので、さっそく行ってきました。

店舗の場所は銀座一丁目、それも昭和通りに面した立派な路面店です。全面ガラス張りの明るい入り口の向こうに、商品がびっしり並んでいるのが外からもよく見えます。あれが全部ロシア製品なのでしょうか。これは結構すごそうです。入ってみましょう。

まず目に入ってくるのが大きな箱の各種ロシアチョコレート。ロシア関係の仕事をしていると、“よそ行き”の手土産でよく目にする、あれです。外国人受けするロシアっぽいイラストに包まれたものもあれば、ロシア人同士の贈答品にも使える、ちょっと気取った包装のものもあります。

これを見て、一緒に来ていた同僚が、「お土産が足りなかったときに使える！」と評していましたが、まさにそのとおり。これまで大量にお土産が必要なとき、いつも苦労したのですが、そういう場面でこれからは「赤の広場」さんに頼れそうです。

一方、普段づかい用のお菓子もたくさんあります。日本でも有名な「アリョンカ」に代表されるコンフェートカ類、それからスーシカなどの堅パン・ビスケット類も種類豊富です。そしてスィローク。最近日本でも大人気になったブランド、B. Yu. アレクサンドロフ (Б. Ю. Александров) の箱入りスィロークが冷凍ケース内にぎっしり詰まっています。これ本当においしいんですよ。

これらの“よそ行きではない”タイプのロシア菓子たちが、東京都心にずらりと並んでいる風景こそが、このお店が本当に目指したいものを示しているように思えます。いよいよこういう時代が来たのですね。

さてここからは、「赤の広場」の真骨頂たる商品たち、みんなが待ち望んでいた「食料品類」についてお話ししましょう。まず黒パン！そう、ロシア直輸入の黒パンが買えるのです。ご存じの通り、ロシアで製造されるパンは外気と触れる包装（空気穴が開いている）が多く、日本に持ち込むと大変カビやすいのですが、ご安心ください。「赤の広場」ではしっかり冷蔵販売されています。

店頭にあったのはコリアンダーをまぶしたおなじみのボ



ロジンスキー (Бородинский)、ほか、黒パンでないものも含め数種類。個人的にはあと、灰色のスタリーチヌイー (Столичный) と、白パンのバトン・モスコフスキー (Батон Московский) も置いてくださったらもう最高、涙を流しながら「赤の広場」に一生の忠誠を誓うところですが、これ以上の贅沢は申しません。ロシア製のパンが東京で買えるだけで、とんでもなく画期的なことですからね。



チョコレート、ゼフィールなど、お土産用のお菓子

続いて肉製品。大きなソーセージ (カルバサ、サシースカ) が何種類も冷蔵ケースに陳列されています。これもすごいことです。海外から日本への肉製品の持ち込みは現在、厳しく制限されていて、気軽にお土産にはできないからです。特に 2019 年以降は容赦なく取り締まられるようになりましたので、こっそり手荷物に忍ばせる、というわけにはいきません。ですから、正規の手続きでロシアの肉製品を輸入してくれる業者さんの存在がどれほどありがたいか。目の前のウーシキ (豚の耳の



カルバサなど肉製品
一番上はキャビア

燻製) がどれほど貴重なものか...!

忘れてはならないのは穀類です。黒パンもそうですが、“ほんとうのロシア土産”を知る人からはよく頼まれ、そして喜ばれるのがグレーチカ (ソバの実) や、ガローフ (エンドウ豆) ですよ。ここにはそのどちらも置いてあります。両方とも銀座で買えるのです。「赤の広場」ばんざい!

ロシアでしか手に入らなかったものが、日本のお店で買えるようになるという現象は、最近、いろいろな形で目にするようになりました。例えば輸入食料品店の KALDI さんでは、上述のスイロークを全国のお店で販売しています。すごいのは業務スーパーさんで、アリオンカのビスケットやカジナークなどの日常菓子を積極的に扱うほか、実はグレーチカもロシアから輸入して安値で販売しています。この充実ぶりは、ほんの数年前までは考えられないことでした。ただ、それらは品切れのことも多いのです。今のところ、ロシア製品が「いつでも買える」のはたぶん、「赤の広場」さんだけ。

私はというと、黒パンとイカ (Кальмар) の缶詰を買って帰りました。缶詰はロシアというよりも、ソ連っぽい食べ物かもしれませんね。私はソ連には行ったことはないのですが、ロシア製のイカの缶詰が東京のど真ん中に陳列されているのを見ていたら、なんだか時空を超えた新しい世界の始まりに出会った気がして、買わずにはいられなかったのです。

「赤の広場」さん、必ずまた来ます!

赤の広場 銀座店 (東京都中央区銀座 1-20-14)

営業時間: 平日 11:00~19:00 / 土曜 11:00~18:00 (日祝休業)



冷凍プリスイとパールメニ (パールメニは赤の広場オリジナルで日本製)



スパイスや調味料



B.Yu.アレクサンドロフの箱入りスイローク



イカの缶詰とグレーチカ、ガローフなどの穀類



ボルシチやピクルスのビン詰類



チョコレートなどお土産用のお菓子類

СТОЛБУШИНСКИЙ СБИТЕНЬ



ロシア伝統の味 12種類のハーブとハチミツのブレンド

スビテン Sbiten 販売開始！

スビテン (Sbiten) は、12 種類のハーブと蜂蜜をブレンドしたロシアの伝統的シロップです。紅茶に少量混ぜれば即席ハーブティーが楽しめ、炭酸水、ホットワイン、アイスクリームやヨーグルト、サラダにかけてもおいしくいただけます。JIC では、ロシア・エストニア国境近くに位置するプスコフ州ストルブシノ村で天然素材を使って作られた《ストルブシノ》スビテン・クラシク (250ml) を直輸入し、販売を開始しました。ロシア伝統の味をお楽しみください。



ロシア農村の「健康飲料」

スビテンは、ロシアで紅茶よりもはるか前に生まれた伝統的飲み物で、1128 年の古文書にその名前が初めて出てきます。さまざまなハーブと蜂蜜、天然水を混ぜ合わせて作られました。スビテンの名前は、ロシア語の『スビワティ=混ぜる』という言葉が語源となっています。もともと、温かい飲み物として好まれており、[ハーブ+蜂蜜]にさらに木の実や果物などを入れて飲まれていました。

独特な味とさまざまな健康成分を含んでおり、疲労回復、滋養強壮、抗炎症作用や免疫調節機能に優れているとロシアの農村で信じられてきました。

ストルブシンスキー・スビテン

《ストルブシノ》社のスビテンは、ロシアとエストニアの国境近く位置するプスコフ州の聖ウスペンスキー修道院の僧院「ストルブシノ」がある村で作られています。

ハチミツはプスコフ地方で養蜂されたものを使用、ハーブやスパイスの多くは修道院の農場で栽培されたものです。ミント、バジル、オレガノ、シナモン、粉末ショウガ、セント、ジョーンズワート、コリアンダ、チョウジ、カンゾウ、カルダモン、ナツメグなど 12 種類のハーブ・スパイスに、レモン果汁、蜂蜜、砂糖を加えて作られた無添加・無着色の自然な飲み物です。

ストルブシンスキー・スビテンは 2014 年第 32 回国際博覧会「ナショナル・グローリー」で『21 世紀品質』金賞を受賞、2016 年第 36 回国際博覧会でも「ロシア 100 の最高商品」賞を受賞しています。

スビテンの美味しい飲み方

スビテンは、紅茶、コーヒーやミルク、ホットワイン (赤ワイン) などにシロップとして加えて飲むのが一般的です。飲み物 200ml 当たり小さじ 1~3 杯を好みに応じて入れ、お楽しみください。アイスクリームやヨーグルトにかけたり、

サラダに入れても OK です。

ホットドリンクやミネラルウォーター、炭酸水などに加えて飲み物とする場合は、およそ 10 対 1 の割合 (1 リットルに対してスビテン 100ml) を目安にしてください。(ビンの底に成分が溜まりやすいのでよく振ってから使うようお勧めします)。

飲み物だけでなく、スビテンにはさまざまな使い道があります。サラダに入れてドレッシングとトッピングするもよし、普段の料理に『ロシアの隠し味』として使ってみてもよし、新鮮で不思議なテイストを試してみてください。

以下は、JIC スタッフたちが考えたスビテンを使った料理レシピの一例です。

手軽なレシピで新たなテイスト スビテンを使ったオリジナル料理

バナナのホットケーキ

＜材料＞

- ・飲むヨーグルト 300 ml
- ・卵 1 個
- ・米粉 200g
- ・完熟バナナ 2 本
- ・ベーキングパウダー 小さじ半分
- ・スビテン 大さじ 1 杯
- ・サラダ油 小さじ 1 杯



①ボウルに飲むヨーグルト、卵、米粉、ベーキングパウダー、スビテンを入れ、よくかき混ぜます。

②完熟バナナの皮をむいてボウルに入れ、フォークで潰したあ

と生地と混ぜ合わせます。混ぜ合わせたら 15 分間寝かせます。
 ③フライパンにサラダ油をひき、弱火でホットケーキを焼きます。表面がふっくらしてきたらひっくり返します。
 ④焼きあがったらお皿に移し、クルミ、レーズン、シナモンなど好みのトッピングで盛り付けて、完成です！
 ＊ハチミツ、メープルシロップをかけてもいいですが、スピテンを少し足すととってもおいしくなりますよ。

クルミとモッツアレラチーズの野菜サラダ



・きゅうり 1本
 ・トマト 2個
 (またはプチトマト 10個)
 ・ルッコラ 100g
 ・クルミ 50g
 ・玉のモッツアレラチーズ 好みの量

ドレッシング;オリーブオイル 大さじ 2 杯
 レモン汁 大さじ 2 杯
 粒マスタード 小さじ 1 杯
 スピテン 大さじ 1 杯
 塩 少々
 胡椒 少々

①キュウリ、トマトは 1cm 角に切ります(プチトマトは 2 等分または 4 等分に切ります)。ルッコラは適当にちぎります。
 ②クルミをフライパンで軽く炒って、砕いておきます。
 ③ボウルにドレッシングの材料を入れ、よく混ぜ合わせます。
 ④ボウルに野菜とモッツアレラチーズを入れて混ぜ合わせます。
 ⑤お皿に盛りつけて、砕いたクルミを振りかけて完成です！
 ＊好みに応じてパプリカやアボガド、またりんごやレーズンを加えても美味しいです。

スペアリブのオーブン焼き

スペアリブ 500g
 玉ねぎ 2個
 ニンニク 2片
 ビール 300cc
 オリーブオイル 15cc／10 cc
 醤油 15cc
 スピテン 大さじ 2 杯
 ／小さじ 1 杯
 塩コショウ 少々



①スペアリブを洗いキッチンペーパーで水分を取ってから切り分けます。

②ボウルにスピテン、オイル、醤油、塩コショウ、刻んだニンニクを入れて混ぜ、5 分間ほど置き、常温のビールを入れてさらに良く混ぜます。
 ③Zip 袋にスペアリブと②を入れて冷蔵庫で一晩寝かせます。
 ④玉ねぎを輪切りにして深いオープンガラス皿に敷き、スペアリブを載せて、袋に残った液をかけます。
 ⑤オープンガラス皿にホイルで蓋をして、200 度のオーブンで 40 分間焼きます。
 ⑥皿に残った熱い汁の一部を深皿にとり、スピテン小さじ 1 杯とオイル 10 cc を混ぜます。
 ⑦ホイルを外してスペアリブの表面を⑥で塗り、綺麗な焼き皮が出来上がるまでさらにオーブンで焼きます。

ハンバーグ

牛豚ひき肉 300g
 卵 1個
 玉ねぎ 1個
 ニンニク 1片
 料理酒 大さじ 1 杯
 スピテン 小さじ 1 杯
 塩コショウ 少々
 オリーブオイル 適量



①玉ねぎとニンニクをみじん切りにして、フライパンでじっくり炒めて(弱火で焦げないように注意)、冷まします。
 ②ボウルにスピテンと料理酒入れてよく混ぜます。
 ③別のボウルにひき肉を入れ①と②を加えてよく混ぜます。さらにとき卵と塩コショウを入れてよく混ぜて捏ねます。
 ④よく捏ねた③をいくつかに分けてハンバーグの形にします。
 ⑤フライパンにオイルをひき、強火で焦げない程度に片表面を焼いて、綺麗な色がついたらひっくり返し、蓋をして弱火でじっくりハンバーグを焼きます。

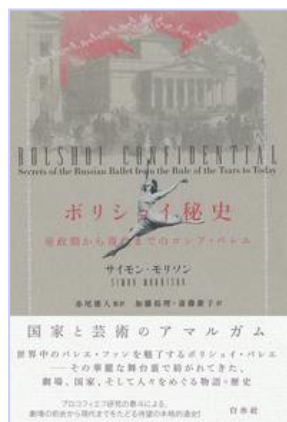
＊その他、唐揚げや豚の角煮、カレー、シチューなどもスピテンを使って面白い味が出せそうです。工夫して新しい味に挑戦してみてください。

商品名：《ストルブシノ》スピテン クラシック 250ml
 定価：1 本 1,944 円税込み (1,800 円＋消費税 8%)
 配送料：全国一律 550 円
 ＊ただし北海道 770 円 沖縄 880 円
 ＊3 本以上お買い上げの場合は送料無料

スピテンの お問合せ、ご注文は
 ジェーアイシー旅行センター「スピテン販売部」へ
 → e-mail jictokyo@jic-web.co.jp
 Tel: 03-3355-7295

本の紹介

「ボリショイ秘史 帝政期から現代までのロシア・バレエ」



加藤 裕理

サイモン・モリソン(著)

赤尾 雄人(監訳)

加藤 裕理(翻訳)

斎藤 慶子(翻訳)

白水社

四六判 (570 頁)

定価 6,600 円+税

■ 書籍概要

2013 年に起きた、当時ボリショイ・バレエの芸術監督だったフィーリン襲撃事件は、世間の耳目も集めました。この事件にまつわる一連の経緯をプロローグに据えつつ、芸術と政治の関係を軸に、18 世紀後半の草創期からソ連時代を経て現代に至るまでのボリショイ・バレエの歴史を一気通貫しています。

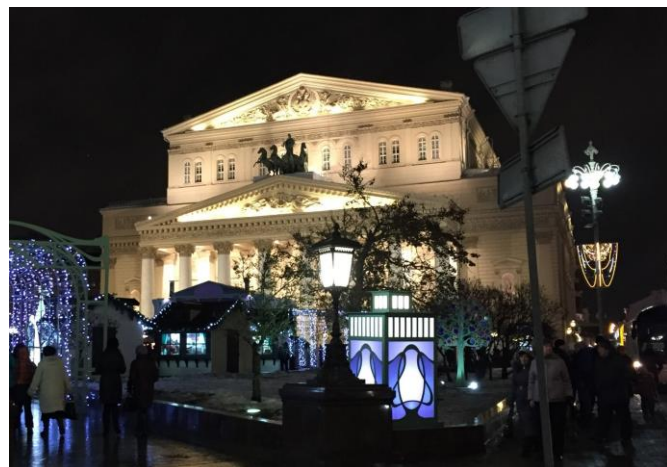
2016 年 10 月にアメリカで出版された同書の和訳ですが、原著者はアメリカ人で、主にロシアとフランスの 20 世紀音楽を専門とする、名門プリンストン大学の教授です。セルゲイ・プロコフィエフの研究で知られ、ロシア国内のネットワークを活かし、モスクワの歴史文書館などから、「よくこんな古文書まで」と感服するほど様々な文献を収集しています。アカデミックな部分はしっかり押さえた学術書ですが、俗っぽい小話も多く、気楽に読めます。

日本語版刊行にあたっては、前半部分にあたるプロローグと、帝政時代の第 1 章から第 4 章までの翻訳を担当させていただきましたので、この部分を中心に、本書の内容を御紹介いたします。

■ 帝政時代のボリショイ・バレエ

帝政時代のロシア・バレエ史に関する書籍は、当時帝都だったサンクト・ペテルブルクの現・マリインスキー劇場に焦点を当てたものがほとんどなので、モスクワ視点の本は新鮮です。首都ほど締め付けが厳しくなく、しかし勢力はある大都市で、一癖も二癖もある人々がのびのび活躍(跋扈?)していた様子が伺える、日本語では本邦初公開であろうエピソードが多数収録されています。

<第 1 章> 1776 年にピョートル・ウルソフ公が女帝エカテリーナ 2 世から許しを得て創設したのがボリショイ劇場です



が、その後、イギリス出身の綱渡り芸人マイケル・マドックスが事業を引き継ぎました。女帝エカテリーナに接近し、競合者と攻防を繰り返して、そして劇場が財政難になれば帝国政府から予算を引っ張り出し...というマドックスの手管の数々は奇術師のようです。

<第 2 章> 1812 年のナポレオンによるモスクワ遠征を受けたボリショイ・バレエ団の疎開や、モスクワに残った団員から見たモスクワ占領下の様子が血なまぐさいほど克明に描かれます。また、ナポレオン撤退後、ボリショイ劇場がナショナリズムの源となっていく様も描かれます。

<第 3 章> 1836~1850 年頃、時の皇帝に目をかけられ、モスクワ市民からも絶大な支持を得ていたプリマ、エカテリーナ・サンコフスカヤの一生を追います。サンコフスカヤの妹がバレエマスターに蹴り飛ばされる事件、サンコフスカヤのライバルがカーテンコール中にリンゴを投げ込まれる事件、また別のライバルは公演中に猫の死体を投げ込まれたり、等、スキャンダラスなエピソードがこれでもかと続きます。

<第 4 章> 主に 19 世紀後半のモスクワとペテルブルクの帝室劇場で、プティパらの手によって相互に『白鳥の湖』や『ドン・キホーテ』等の新演出が繰り返され、完成度が高められていく過程がまとめられています。また、1882 年頃の、乱れた劇場運営の改革についても詳述されています。

■ みどころ

本書では、財政面のかかなり具体的な数字まで紹介されており、文化政策やアートマネジメントの観点からとても興味深いです。今日でこそ、ロシア・バレエは政府の手厚い保護を受けている代表格と受け止められがちですが、数世紀遡れば、アウトカムやエビデンスという言葉が呪いのようにしかかる現代日本と似たような光景が繰り返られていたようです。

例えば、18 世紀後半、民営事業としてボリショイ劇場を運営していたマドックスは、事業が行き詰まると、運営主体は

政府に移した上で、自らは総裁の座に収まります。そして、帝国政府から、運営経費として年間 27000 ルーブルを受け取り、興行収入 50000 ルーブルを基準とし、これを上回れば、5000 ルーブル、下回れば 3000 ルーブルを総裁の報酬として得る、という取り決めになりました（赤字になれば無報酬）。その結果、上演される演目が大衆迎合的になった、というのは、現在でもあちこちで聞く話です。

また、1882 年頃には、財政難によるポリショイ・バレエの構造改革が漸行されました。プティパらが各団員の年齢・実力を評価し、その結果、ある者はペテルブルクに移籍し、残りのほとんどの者は賃金カットまたは解雇となりました。その一方で、それまでは才能があってもなくても 年間 100～150 ルーブルしか稼げなかったのが、才能に応じ昇進が可能になり、ソリストになれば平均 600 ルーブル稼げるようになったそうです。

* * *

後半にあたる第 5 章から第 7 章はソ連時代のポリショイ・バレエ史です。プロコフィエフやハチャトゥリアンなど、ロシア音楽の巨匠が多く活躍した時期でもあり、著者の本領発揮ともいえます。（後半の紹介は次号に掲載します）

『ロシア映画を勉強する会 8 周年記念文集』

扇 千恵（ロシア映画を勉強する会）

神戸元町映画館で月に一度開催してきました「ロシア映画を勉強する会」が 8 周年を迎え、これを機会に、各会員がロシア映画と自分との関わりや、好きな映画について書いた文集を発行しました。

巻末には勉強会で扱った 1910 年代から 1990 年代に至る 77 作品のデータも収録しています。ロシア映画に興味をお持ちの方には是非一読いただきたく案内させていただきます。



B5 判 (56 ページ) 500 円 (送料込み)

申し込み先：扇千恵 chie@kih.biglobe.ne.jp

支払いは、郵貯銀行振り込みでお願いしています。

関西外国語大学の村井淳先生からメールをいただきました。

「私は、これまで観光、留学、研究者交流など 10 回以上はロシアを訪問しました。…、日本では、ロシアの世界遺産やシベリア鉄道の旅が有名ですが、ロシアでは夏には川船の旅が人気です。エニセイ川などシベリアの川旅もありますが、とくに人気なのはヴォルガ川とその運河の船旅です。夏のロシアの国内旅行人気ベストワンです。…」

以下、村井先生から投稿いただいた「ヴォルガ川 船の旅」を掲載させていただきます。（編集部）



ヴォルガ川 船の旅

村井 淳（関西外国語大学准教授）

日本などでは、ロシアの旅と言えば、世界遺産カシベリア鉄道などが有名であるが、ロシアで人気の国内旅行は、川船の旅、とくにヴォルガ川の船の旅である。おおよそ 6 月から 9 月中旬頃に運行される。7 月や 8 月が人気である。ロシアでは、9 月中旬頃になるともう秋である。8 月でもロシアの北の方やシベリアでは、最低気温が 10 度以下になる。日中は晴れば半袖、ちょっと曇れば長袖あるいは上着が必要だ。8 月のソロヴェツキー群島では、手袋とマフラーを売っていた。日本の 8 月を思えば、涼しくて爽やかだ。

そもそもロシアでは、北は白海やペテルブルグからモスクワ、そしてペルミやカスピ海、黒海とヴォルガ川とが運河で結ばれて、氷結期以外は、船での物流の大動脈となっている。この運河は、スターリン時代に強制労働による大勢の犠牲の下に建設されたものである。

船は、おおよそ大中小の三種類ほどあり、部屋は 1 等、2 等、3 等とある。1 等は最上甲板で部屋からの眺めも良く、室内にトイレやシャワーがある。2 等と 3 等は、共同であり二人部屋が原則である。

また、船旅はロシア国内の旅行会社によって色々なプランがある。基本的に食事と陸上のツアーがセットになっている。値段は安いモスクワ～ウグリチ往復一泊二日からモスクワ～ペテルブルグ往復三週間弱というのまである。モスクワからペテルブルクまで、日中の高速列車なら 4 時間ほどで行けるが、船で川をゆらゆら 10 日もかけていくのである。

モスクワ～ペテルブルグのコースは人気があり、途中観光地に長ければ半日も停泊しバスなどで陸上ツアーがある。行きと帰りは、昼夜が別になるようにして、帰りには、行きに夜で寄港できなかった観光地に寄港する。ウグリチ、キリーロフ、キジ島、ペトロザヴォーツク、バラーム島などに寄港

し、オネガ湖とラドガ湖を抜けてペテルブルグに達する。ペテルブルグでは、船をホテル代わりに二泊し市内観光を楽しむ。モスクワ～ペテルブルグの間には、閘門（シリウス）が10～20ほどあるという。とくにオネガ湖から北の白海への運河には、閘門が5つも連なった場所がある。ここで、水位を調整するのだ。時間がかかるので、地元の人が食糧や土産物を売りに閘門の縁に来ている。船が上がり下がりすると、船の各デッキの人と商売できるという塩梅である。こうして、船は、山を越えていくのである。

私の場合は、5回ほどヴォルガ川船の旅を経験し、モスクワを起点にペテルブルグ、ソロヴェツキー群島、ペルミ、アストラハンなどに行った。どれも、素晴らしい旅だった。ロシア人の友人にチケットなどの手配をしてもらって、その友人らと旅をした。どうも、日本の旅行代理店でも一部のコースはチケットが取れるようだ。

川船の旅は、海と違って、夜以外は船からの景色に飽きが来ない。大海原であれば、水平線しか見えないが、川船の旅では、岸辺に牛が草を食んでいたりと、古い教会があったり、釣り人が手を振っていたり、それを見ているだけでも楽しい。夜は、原始林の中を航行する船から満天の星空が鑑賞できる。

また、船の旅では、陸上観光や食事もし楽しいが、友達が出るのも楽しい。船の中で知り合ったロシア人などとお酒を飲みながらいろいろ歓談するのも楽しみだ。

コロナが収まれば、ロシアのヴォルガ川船の旅をお勧めしたい。出来れば、観光地や船が通る場所の歴史や美術、社会などをちょっと予習しておくで現地に行ってから教養が倍增する。ロシア語が話せなくても、最近では若い人を中心に英語の出来る人も増えている。

お勧めのルートは、モスクワ～ペテルブルグのコース以外には、～ソロヴェツキー群島（バルモルスクから水中翼船）～アストラハン～ペルミである。往復が良いが、片道にして帰りは列車や飛行機でも良いだろう。ペテルブルグ、ペルミ、カザン、ニジン・ノボゴロド、ペトロザヴォーツクなどの都市や世界遺産のキジ島の観光も良いが、日本ではあまり知られていないソロヴェツキー群島、プリョス、キリーロフ、バラーム島などもおすすめだ。ソロヴェツキーは、古い修道院があるが、それよりもスターリンの強制収容所第一号がこの修道院に設置された。プリョスは、ロシアの画家がとくに黄金の秋には訪れるという画家たちの聖地である。船着場には、個々の綺麗な風景を題材とした絵画を売る露天が軒を並べている。プリョスは、パシヨーロックと言って田舎のちょっと大きな村や町ということだが、カザン方面へ行く際は必ず寄港する。その際には、是非イサーク・レヴィタン美術館を訪問されたし。彼は、19世紀後半の有名なロシア風景画家である。キリーロフやバラーム島は、白亜の修道院やクレムリン（城壁）で有名である。

ヴォルガ川船旅（クルーズ）などに関する案内書は、ロシ



写真／(上から順に)ヴォルガ川クルーズ船、運河の途中にある閘門、船内のレストラン、キジ島観光

アでは、写真や地図入りで数多く出版されている。英語版やドイツ語、フランス語版もある。しかし、残念ながら日本語版はお目にかかったことがない。

拙稿『母なるヴォルガーロシア史をたどる川旅』（ユーラシアブックレット№198・東洋書店）にもう少し詳しくヴォルガ川船の旅を書いた。読んでいただければ幸いです。

キルギスでの2年間の日本語教師体験を書いていた倉谷恵子さんに、「たった3回で連載を終わるのは勿体ない」という声を受けて、もう少しキルギスでの体験を書いていただくことになりました。

中央アジアの国キルギスについて、日本ではまだよく知られていません。キルギスの生活文化ゴスチ(家庭やレストランでの宴会)を切り口に、キルギスの人々の暮らしと生活意識を紹介していただきます。(編集部)

キルギスに暮らす(1) ゴスチ

倉谷 恵子 (キルギス日本語教師ボランティア)

「ケイコ、ゴスチ!」。アパ(キルギス語でお母さんの意味)が私の部屋のドアを開いて叫んだ。ああ、今週もあるのか。取り立てて断る理由もないのだから、「はい」と答えて支度をするまでだ。

ゴスチはロシア語の「гость, гости」。日本語に訳せば「客」である。しかし「恵子、客だぞ!」と伝えられたのではない。この場合は「我々がお客様として招かれている所へ行きますよ」という意味である。

キルギスへ日本語教師として赴任した1年目の前半はキルギス人の家庭にホームステイをしていた。当初ロシア語もキルギス語も解さなかった私にステイ先の家族が端的に用件を伝えるには単語一言を発するのがもっとも分かりやすかったから、私を宴席へ連れていく時はいつも一言「ゴスチ」と言われていた。

ゴスチの予定はあらかじめ決まっているだろうから、前日か当日の朝までにも知らせてくれればよさそうなのだが、大抵出発の15分くらい前になって伝えられた。突然のことに戸惑ったが、このステイ先に限らず、キルギスではその日になって人を誘ったり予定を決めたりすることは珍しくない。

ステイ先での暮らしが長くなると次第に、アパがいそいそと洋服を着替え始めたり、アタ(お父さん)が車を車庫から出したりという家族の行動を察知して「もしかして今からゴスチかな」と予測できるようになった。大きな宴会へ行く場合はアパのおめかしにも力が入り、ワンピースドレスに華やかなショール、普段以上にくっきりしたメイクとネイルで、一般家庭の小さなお呼ばれだと比較的抑えたおしやれをしていた。無論、一般家庭でも大きな家ならたくさんの人を呼んで盛大なパーティーができるので、アパの身なりだけで簡単に行先は量れない。私は現地で手持ちの洋服は数着しかなかったから、大したおしやれもできるはずがなく、学校の授業と同じ身支度しか必要なかったのも、実際には出発15分前に伝えられても十分に間に合った。

車に乗り込んで出発。一体どこへ向かうのか。首都ビシュ



(写真) テーブルの上にはキルギス語で「ナン」と呼ばれる円盤状のパンや果物などがうず高く盛られている。

ケクの街中か反対の郊外か、あるいは車で5分の近所の親戚宅へ行くのか。そして帰りが何時になるのか、何の名目で集うのかなど私には何も分からない。ただひとつ、お腹が満たされることだけは確かだった。

キルギス語に浸る

ゴスチは土曜、日曜か祝日の昼から夕方にかけて、あるいは夕方から夜にかけて開かれることが多い。親戚や友人宅など一般家庭でのホームパーティーもあれば、大きなレストランに数十名、時に100名以上が招かれる宴会もある。集う理由は誕生日、祝日、宗教のお祝いなどだ。私が経験したゴスチの大部分は誕生日だった。ちなみに誕生日は日本のように周囲の人が当人を祝うのではなく、当人やその家族が親戚や友人を招いてご馳走するのがこの国の習慣である。私のステイ先の夫妻は毎週のように親戚や知合いのゴスチに出席していたが、同僚たちのステイ先ではそれほど頻繁ではないようだったから、すべての家庭がゴスチ好きでもないのだろう。

レストランでの宴会だと、まずアタやアパは入り口で出会った顔見知りや挨拶をし、広い空間にいくつも並ぶ丸テーブルの一席に座る。到着時刻によって会場には人がまばらだったり、ほぼ全員が着席していたりする。ある時のゴスチでは空きテーブルがかなり散見され、一体いつになったら人が集まるのやらと待ちあぐねていたら、1時間近くたってようやく席が埋まり始めた。その間、アタとアパは席へ寄ってきた親戚とおぼしき人々と抱擁のあいさつを交わし、近況報告などをしていた。隣に座っている私の方へ視線を向けて「イボンカ японка (日本人女性)」だと言い、あれやこれやとしゃべっていた。我が家にホームステイをしている女性だと紹介しているのだろう。私も彼らに「こんにちは」と挨拶をして、頬を寄せてくる女性にはそれなりの親愛の情を示し、握手を求める男性には手を握り返した。アパが私のことを「マイヤ

ドーチカ моя дочка (私の娘)」だと冗談を言うと一緒になって笑っていた。

テーブルの上にはキルギス語で「ナン」と呼ばれる円盤型のパンや果物、キャンディ、チョコレートなどがあらかじめ高く盛り上げられていて、何種類もの前菜が並んでいる。会が始まる前からそれらに手をつけることはまったく問題がないようで、暇を持て余している私に、アタや近くの人が前菜を取り分けてくれた。キルギスではこのような席で、スープ以外の料理は基本的に大皿から銘々皿に取り分けてフォークとスプーンで食べる。取り分け用のカトラリーが特に用意されてはいないので、各自のフォークやスプーンで取るのだが、一旦口をつけたフォークを大皿に入れることに彼らはほとんど抵抗がない。コロナ禍の昨今、同国のこんな習慣が少しは変化するだろうかと考えてみるが、果たしてどうだろう。

前菜の味見をしているうちに会が始まり、音割れ寸前のスピーカーからノリの良い音楽が流れ、司会者がマイクで話し始める。彼は会の進行以外に歌を歌ったりもする。キルギス語で話しているので、何を言っているのかさっぱり分からない。アタやアパを含め出席者はほぼ皆キルギス語で歓談している。

ロシア系をのぞくキルギス人の大部分はロシア語とキルギス語の両刀遣いで、親族や親しい間柄ではキルギス語で会話することが多い。勤務する学校ではロシア語が使われており、ステイ先でも家族は私にロシア語で話しかけてくるので、キルギス語だけの世界に身を投じることはあまりない。だからほぼ100%キルギス語が響いているゴスチの空間は異次元のようだった。

しかし言葉が分からなくても決して不愉快ではない。出席者の表情は一樣に楽しげで、どこかの国のビジネスの集まりのように、名刺交換と顔つなぎのためにとか、立場上仕方なく来た、という面持ちの人はまったく見受けられないからだ。

会によって趣向は異なり、ほとんど特別な余興もないまま食事と歓談で終わることもあれば、クイズの出題や歌の披露とにぎやかな場合もある。出席した家族ごとに前へ出て、誕生日の当人とその家族にプレゼントやご祝儀を渡し、1人ずつお祝いの言葉を述べた会もあった。



出席者たちが前へ出て、当日の主役へプレゼントやご祝儀を渡している

ある幼い子どもの誕生祝いの際には、トイハナ前の歩道で出席者たちが走ったこともある。幼児の歩き始めを祝うキルギスの儀式らしく、若い出席者たちが男女別になって、母親に抱えられた幼児に向かって全速力で数十メートルを競走するのだ。ブーツ履きで足元も悪く、傍観者でいるつもりだった私をアパは半強制的に列に並ばせた。しどろもどろ走ると結果は4位。

会場に戻ると1位から3位までの出席者には賞品が渡されるらしく、拍手とともに順に前へ呼ばれていた。のんきにその様子を眺めていたら突然、「ケイコ」と司会者が叫び、「イポンカー」と言った。「えっ、私?なぜ?」とおどろいていたら、アパが「前へ出なさい」とうながした。前へ出ると司会者から「おめでとう」と賞品を渡された。会場を見渡すと皆微笑んで拍手をしているので、とりあえず受け取り、席に戻ると賞品のヘアアイロンを即座にアパに手渡した。

振り返って考えると、競走が終わった直後、順位を記録する担当者にアパがわざわざ「この人は日本から来たの...云々」と話していた気がする。外国人がせっかく出席したんだから何とか入賞扱いにしないかいよ、とでも言ったものか...。祝われる主役の子どもより、走る大人たちが楽しんだ儀式のようだった。

羊肉にびっくり

ステイ先から行ったゴスチではあまり体験しなかったが、キルギス人は踊ることが大好きで、途中4、5回の「ディスコタイム」がはさまれる宴会も多い。ちょっとしたレストランにはミラーボールや舞台が常設されていて、大人数で踊れるだけのスペースもちゃんと確保されている。あくまで「クラブ」ではなく「ディスコ」がふさわしく、音楽が流れだすと「ディスコティエカ (дискотека) !」と言って喜びながら、疲れ知らずのように延々と体を揺らし続ける。学校の先生方が主催するパーティーはその最たるもので、食事や歓談よりディスコ目的で出席しているとしか思えないほどの化粧や装いの女性教員も多く、「昼間の彼女たちは本当に小中学校の先生なのだろうか」とおどろく程だった。

そして宴席に欠かせないのはお酒である。キルギス人の多くはイスラム教徒だから本来ならお酒は飲まないはずで、実際、農村部では酒もたばこもやらない人は結構いる。しかし首都近郊に住む住民の多くは、イスラム教徒であってもお酒を平気で口に、ゴスチの際にはウォッカやコニャックを開けて大いに楽しむ。学校の先生方のパーティーの際は、下戸の私が「飲まないのではなく、飲めないの」と言っても、かなり強くお酒を勧められて少々困ったこともあるが、ステイ先から行くゴスチでは、アパが「この人は飲めないの」と言ったら周囲はそれ以上勧めてこなかった。やはり「家族」は自分を守ってくれる味方だ、ありがたいと思った。

ゴスチに慣れないうちはテーブルに並んでいるサラダ類の前菜をそれなりにぱくぱく食べていた。皿が空になると周り

の人がすかさず入れてくれたから。しかしゴスチの回を重ねると、それではお腹が破裂することを悟った。会が進むと次々に料理が運ばれてくるのだ。店によって料理の内容は違うが、初めてゴスチに行った時に少し驚いたことがある。一番最後に出てきたお皿がケーキやフルーツのようなデザートではなかったということだ。甘いものは別腹で、膨らんだお腹にもケーキなら入ると思っていた私を見事に欺いてくれた。

出てきたものは何か。骨付きの羊肉だった。この国では祝いの日には羊を丸ごと一頭しめて、それを皆で食べるのが伝統的な習わしという。宴席の最後に出てくるのはそれほど重要な食べ物だからだろう。しかし骨付き肉にかじりつく程の余力は残っていないし、口の中をさっぱりさせたい気分の時に羊肉が目の前にどんと乗せられると、正直なところ気持ちがあへこんだ。



宴席終盤には骨付きの羊肉が饗された。すでにお腹がいっぱいではなか手を出せない。

言葉が聞き取れないのでお開きのタイミングが明確には分からないのだが、周囲の様子を見れば、そろそろだなと推し量ることはできる。ウェイtres達が持ち手付きのビニール袋を配り始めるのだ。「お持ち帰り袋」である。キルギスではレストランなどで残った食べ物をビニール袋に入れて帰ることが日常的で、ゴスチではむしろ客の持ち帰りを前提に料理が出されているようにも思われる。袋を手にとると皆、我先にと果物やキャンディをつかみ、皿の上の羊肉や麺も躊躇なく袋に投入する。袋の中に入りんごもナンもチョコレートも区別なく突っ込み、複数の料理を一緒に詰めて味が混ざるなどと気にしない。遠慮なくテーブル上の食べ物を片付けるのだ。

明日のご飯とおやつを携えた私たちは帰路につく。重い門を開いて車が車庫に入ると、静かな日常に戻る。お茶を一杯飲んだら、すぐに部屋に引き上げる。その日が土曜日なら翌日はお昼近くまで誰も起きてこないだろう。

ゴスチは人生そのもの

日本語教師としてのキルギスレポートの寄稿を1月号で終えた後、思いがけず再度の原稿依頼を受け、果たして何を書くべきか迷った。日常生活、自然、経済、言葉、人間性...掘り返せばきりが無いけれど、何かキルギス人を象徴する事象はないだろうか。そう考えた時に浮かんだのがゴスチだった。

日本でもかつてはお祭りやお祝いなど折々に集まり、親族のきずなを深めていたはずだ。しかし現代では働き方も暮らし方も変わり、娯楽も豊富だから、個人の時間が重視されるようになった。そして少子高齢化による人口減少も手伝い、大勢の親類が集って賑やかに過ごすことはほとんどなくなった。キルギスではいまだに家族の人数は比較的多く、親族の結びつきが強い。娯楽が少ないのでゴスチが盛んなのだと思われる。時代とともに生活様式が変化すればゴスチのあり方もいずれ変わるかもしれない。実際、コロナの流行当初には人の集りを禁止せざるを得なかったのだから。

しかしゴスチの文化そのものがキルギス人の心から離れたりはしないと思う。食べて飲んでしゃべって踊る。これは彼らの生き方そのものだからだ。

我を押し殺して望まない人間関係に悩んだり、貯蓄額の不足を憂えて沈痛な表情でいるくらいなら、気心の知れた親類や友人が集まって、食べてしゃべって心を開放してしまう。来るか来ないか分からない明日のために神経をすり減らすより、今日という目の前の一日を楽しむ。刹那的と言えば確かにそうだ。一方で、家族や親類が常に集まってつながりを確認する行為は、非常時がいつ来ても互いに助け合えるようにする備えでもある。

ゴスチ、それは客。客として招き、招かれる時間の繰り返しの中で、彼らは互いの心を開き、生きるために大切な人と人のつながりを確認し続けているのだ。

日本語教師募集！

キルギスの11年生学校「ビリムカナ・カント校」

キルギスの首都ビシケク郊外にある11年制学校「ビリムカナ・カント校」が、日本語教師を募集しています。

給料は少なく、往復旅費も自前と、ほぼボランティアの条件ですが、教師経験を積み、ロシア語もしくはキルギス語を学習するよい機会になります。

受入校；ビリムカナ・カント校（私立の11年制学校）

所在地；ビシケク郊外（バスで約30分）のカント市

授業数；1授業40分×1日3授業×週5日

給 料；月額150ドル

宿 舎；ホームステイまたは学校寮（1人部屋/無料）

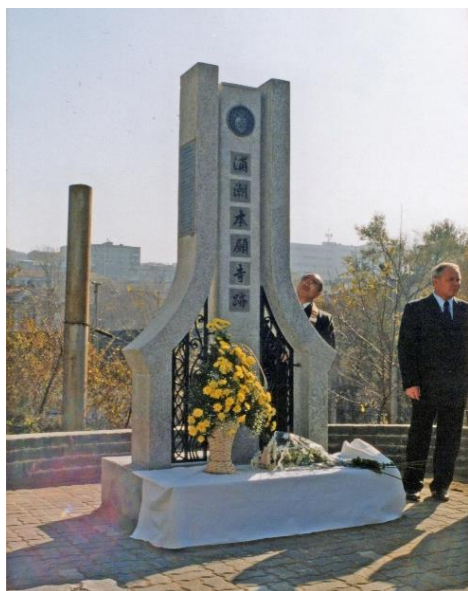
期間；21年9月～22年6月（希望により変更可）

問合せ先；JIC 東京事務所 TEL:03-3355-7294

e-mail: jictokyo@jic-web.co.jp

日本・ウラジオストク協会（中本信幸会長）のオンライン懇談サロンが11月29日に開かれ、同協会理事で大阪日ロ協会理事長の藤本和貴夫先生が「浦潮本願寺跡碑が建立されて、さくらの花が咲くまで」と題して講演されました。明治期から昭和の初め頃まで、ロシア沿海地方のウラジオストクは「浦潮、浦塩、浦汐」などと表記され、多くの日本人が住み、日本との間で活発な往来がありました。日本居留民の心の拠り所となったのが浦潮本願寺でした。2000年11月に建立された浦潮本願寺跡碑のエピソードを中心に、日本とウラジオストクの交流の歴史が紹介されました。

以下、講演録を日本・ウラジオストク協会の了解を得て掲載させていただきます。（編集部）



日本・ウラジオストク協会 オンライン懇談サロン／2020年11月29日

浦潮本願寺跡碑が建立されて、さくらの花が咲くまで

藤本 和貴夫（大阪経済法科大学前学長、大阪日ロ協会理事長）

浦潮本願寺跡碑除幕式

ウラジオストク市内の旧国立極東大学の横に浦潮本願寺跡碑が建立されたのは2000年11月3日のことです。20年前になりますが、写真は除幕式の時に撮られたものです。

除幕式には、ウラジオストク市のY・M・コピロフ市長、浄土真宗本願寺派の不二川公勝総務、在ウラジオストク日本国総領事館の黒田義久総領事、ロシア極東国立大学のB・L・レズニク副学長、同大学東洋学院のA・A・ハマトワ学院長ら錚々たる方々が参加し、それぞれ挨拶されました。

記念碑の建立にあたって日本側で中心的に働いてくださったのは浄土真宗本願寺派の国際部長・林安明氏、龍谷大学の小島勝教授からです。浄土真宗本願寺派というのは西本願寺のことです（浄土真宗大谷派が東本願寺）。浦潮本願寺は西本願寺の系統だったのですね。林氏が『浦潮本願寺記念誌』（浦潮

本願寺記念碑建立を支援する会編、2001年刊）に除幕式当日の話を簡潔に書いておられるので、少し読み上げます。

「2000年11月3日朝。ひんやりと晴れ渡った青空の下、ロシア・ウラジオストク市の一角で讃仏偈のおつとめが響き渡った。恐らく、その場所での読経は六十数年ぶりであったに違いない。集まった人々のほとんどが当時を知らない世代であったが、それでもみんなは、それがそこにあったという事実を後世に伝えようと碑の除幕を祝った。旧浦潮本願寺の記念碑である。」

なかなか進まなかった周辺の庭整備

写真を見ていただくと、記念碑の建立当時は、後ろに鉄柱のようなものが立っているだけで、周りに木も植わってないし、記念碑だけがポツンとある殺風景な状態でした。

その中で、コピーロフ市長が非常に熱のこもった、親身な挨拶をされています。その一部を紹介します。

「.....戦争があり、悲しみがあり、血が流れ、しかし、人は人として、信仰は信仰として残ったのです。仏教もギリシア正教もユダヤ教も、どのような宗教も一つの方向に向かっていきます。『殺すな!』と。宗教は普通の人々の生活に根ざしています。.....記念碑が建立された場所に、仏教の寺院がありました。.....春には、ここは見違えるほどの場所になっているでしょう。そのことを私はお約束します。」

記念碑周辺の庭を整備して木を植えるという話だったのですけれども、当時ロシアはソ連邦解体後の混乱からまだ十分脱していない状態で、周辺の庭も整備できない時期が長く続きました。

集合写真には、不二川総務（中央）、林国際部長、極東大学のモルグンさん（左から2人目）、龍谷大学の先生方らの顔が見えます。除幕式のあとは夕方から当時ウラジオストク駅構内にあったレストラン「グドーグ」で祝賀パーティが開かれました。

記念碑建立まで

ご存じの通りソ連時代にはウラジオストク市は軍港だったため閉鎖都市で、外国人の立ち入りが禁止されていました。ソ連崩壊後の1992年1月にウラジオストク市はようやく対外開放され、以来、日本からも多くの人が訪れるようになりました。戦前に浦潮に住んでいた人やその子孫、研究者もたくさん入りましたが、浦潮本願寺跡がどこにあるか分からなかったのです。浦潮本願寺の最後の住職・戸泉憲龍氏の奥さんで1937年に帰国した戸泉米子さんが、1996年にウラジオストクを訪れた時に極東国立大学のゾーヤ・モルグン先生と探した結果、浦潮本願寺の跡地が確認されたわけです。

そこでウラジオ側で「記念碑を作りたい」という話が持ちあがりました。アムール地方研究協会、国立極東大学、東洋学院が中心になって記念碑建立計画が動き始めました。しかし、ロシア側だけではできません。日本の本願寺と連絡を取りたいということで私が依頼され、龍谷大学の人たちと相談をして、西本願寺国際部と関係をつけることができました。

1999年1月にモルグンさんが来日した時に西本願寺を表敬訪問し、記念碑建立の構想を話し合いました。ウラジオ側と日本側がいろいろと案を出し合い、モルグンさんが7月に再来日して協議した結果、建立が正式に決定しました。西本願寺の国際部と龍谷大学の先生方が中心になって、「浦潮本願寺記念碑建立を支援する会」が設立されて募金活動を始め、短期間で77名の個人と団体から賛同基金が寄せられました。こうして記念碑づくりが始まったわけです。

ロシア側が石碑の文字を彫る

石碑には日本語を彫るわけですから、日本側では、銅板に

日本で文字を彫って行って現地で石碑にはめ込もうと考えました。日本語の墨文字は深く彫るところと浅く彫るところがあるので難しい。それで、日本側で銅板を作ろうとしたのですが、ロシア側が絶対だめだと反対しました。「銅板が盗まれる!」(笑)。

実は同じところに、ウラジオストクに与謝野晶子の歌碑が建てられました。それも銅板を日本で彫り現地で石にはめ込んだのですが、あっという間に銅版が無くなりました(笑)。それで、銅板を止めにして、石に文字を直接彫りつけることになりました。日本文字をきちんと石に彫る技術がロシア側にあるのかどうか心配したのですが、ロシア側は「いや、それはちゃんとできる」という話です。実際の記念碑を見ていただければ分かりますが、見事に日本語が彫られています。あれは日本ではなくて、現地ウラジオストクで彫ったものです。

こうして浦潮本願寺跡碑が建立され、日本側から十数名が参加して、2000年の11月3日に除幕式と祝賀会が行われたわけです。

記念碑のデザインと説明文

記念碑には、正面に西本願寺の紋「下り藤」と「浦潮本願寺跡」の文字が刻まれ、両側面に説明文が彫られています。説明文は、碑の右側面にロシア語で、左側面には日本語で、次のような文章が書かれています。

「19世紀後半以来、ウラジオストクは日本人とロシア人の運命の出会いの場所であった。1886年、日本の西本願寺がウラジオストクで開教に着手、1914年から1937年まで存在した「浦潮本願寺」は海を隔てて祖国を離れた日本人の心の安らぎの場所であった。この碑はその跡地に日本と沿海地方との親善関係を記念して建立するものである。この記念碑は、アムール地方研究協会と極東総合大学、東洋学院を中心に、日本の「浦潮本願寺記念碑建立を支援する会」が協力して建立された。2000年9月」

碑の裏面には、ロシア語で浦潮本願寺にゆかりの深い人の名前が刻まれています。

・初代開教使の多門速明さん——この人は九州の出身で、西本願寺からウラジオに派遣された最初のお坊さんです。

・開教監督の太田覚眠さん——ウラジオストクに一番長く滞在して浦潮本願寺の発展に尽くした人です。



戸泉米子さん

・最後の開教使 戸泉賢龍さん——1937年の浦潮本願寺閉鎖まで残って、最後に帰国しました。

・発案者 戸泉米子さん——戸泉賢龍さんの奥さんで、彼女が浦潮本願寺跡を確認し、日ロ

の関係者を叱咤激励しなければ記念碑の実現はなかなか進まなかったでしょう。



戸泉米子さんは、除幕式には体調が悪くて出席できなかったのですが、福井県日露親善協会の代表としてその後何度もウラジオストクを訪問し、記念碑の周りに桜の木を植えようと、奔走されました。建立からもう20年が経過しているわけですが、周りに桜の木が植えられ、春

には満開の桜がみられるようです。うまく満開の写真が見つからず、すみません。

浦潮本願寺跡碑は、現在、ウラジオストクと日本との関係を象徴する場所の一つとなっております。

ウラジオストク建都（1860年）

では、なぜ日本海を挟んだ対岸の地に浦潮本願寺が作られたのかということ、歴史を振り返りながら簡単に説明しておきます。

1860年、まだ明治維新の前ですが、ロシアと清国が結んだ北京条約で、ウラジオストクを含む沿海地方はロシア領になりました。ウラジオストクが建都されたのは1860年ということになります。

1868年に日本は明治維新を迎えます。ロシアのシベリア艦隊の基地はカムチャツカ半島のペトロパブロフスクにあったのですが、その後アムール河口のニコラエフスクに移り、さらに南下して、1871年にウラジオストクへ移転してきます。カムチャツカは、ロシアとトルコの間で始まったクリミア戦争（1853 - 56年）の時に、トルコの同盟国だったイギリスとフランスの海軍に襲われているのです。その後ロシアにとって海軍基地をより安全な場所に移すということで南下したわけです。1875年には日本とロシアの間で樺太・千島交換条約が結ばれます。この条約交渉の時に日本側はすでに日本人が商売を始めているウラジオストクに領事館を置きたいと申し入れたのですが、ロシア側は軍港であることを理由に断ります。実際には、日本が領事館を置くとアジアでロシアと対立していたイギリスも置くと言い出すので、それを嫌ったようですが、妥協の産物として日本貿易事務官（Commercial Agent）を置くことになりました。日本側には内々に領事館

並みの機能を認めるという合意があったようです。初代事務官には外務省から瀬脇寿人という人が赴任しました。

そして日露間の往来が活発になり、1881年にはウラジオストク - 長崎間に定期航路が開設されます。

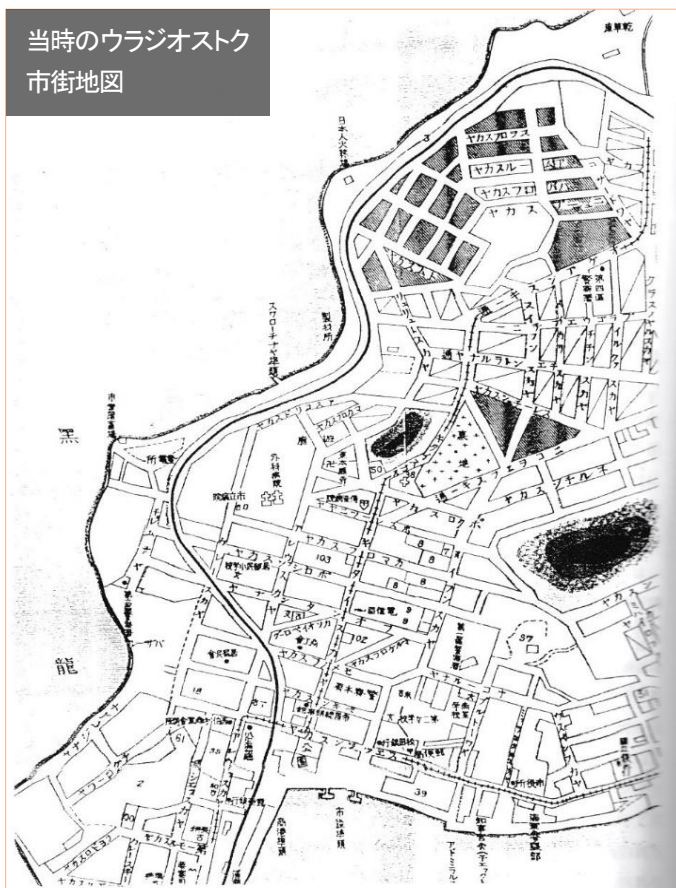
西本願寺のシベリア開教（1886年）

この時期に、西本願寺（浄土真宗本願寺派）は最初の布教使をウラジオストクに送り込みました。1886年のことです。九州・佐賀県神埼（現神埼市神埼町）の円樂寺住職・多門速明（多聞の表記もあり、名前も連明と書かれたものもある）が派遣されました。

1891年にはウラジオストクでシベリア鉄道の起工式が行われます。日本からウラジオストクにたくさんの人が行くようになるのは、このシベリア鉄道の建設工事で出稼ぎ仕事が増えたからです。九州の長崎、佐賀、熊本から、工事を請け負った日本人グループ（親方と人夫たち）が大勢出稼ぎに行きました。冬は工事ができませんから、春から夏・秋にかけて向こうで仕事をして、冬は帰ってくる。翌春にまた出かけるという形でしたが、そのうち日本に帰って来ないで現地に居つく人が増えていきました。佐賀県が多門速明師が初代開教使に選ばれたのは、信徒の同郷人という意味があったのだらうと思います。

シベリア鉄道の起工式にはロシア帝国の皇太子・ニコライ（後の皇帝ニコライ2世）が出席します。日本を訪問したニコライ皇太子は大津で警備の津田巡査に切りつけられて負傷

当時のウラジオストク
市街地図



する(大津事件)わけですが、無事にウラジオストクに帰り、予定通り起工式に出席しました。皇太子がやって来るというので建設されたのがアドミラル(提督)埠頭から中心部に向かう通りの入口にあるニコライ門です。この門はロシア革命後に壊され、2000年代に再建されました。

地図を見ていただくと、アレウツカヤ通りを上がっていった突き当りに、お寺のマークと東本願寺と書いてあります。西本願寺の間違いですが、これは当時の地図です。ここが浦潮本願寺のあった場所です。その左に外科病院と書いてありますが、現在もここには病院があります。

日本居留民会

1890年代以降のウラジオストクで重要な役割を担ったのは、浦潮本願寺と日本居留民会です。居留民会と本願寺が現地日本人社会を動かす「車の両輪」となっていました。

1892年にウラジオストクで商店や貿易業を営む有力者が集まって、最初の居留民会組織である「同盟会」が発足しました。同盟会は1895年に「同胞会」になります。

当時は、フォンタンナヤ通りに本願寺の出張所があったのですが、1894年にそこで日本人子弟の教育が開始されました。

日本人居留民会にとって、最初の大事件は1894年の日清戦争でした。これは日本と中国(清国)との戦争ですが、ウラジオストクにはたくさんの中国人が住んでいました。戦争がウラジオストクにまで波及するのではないかといわれ、この時日本に引き揚げる人が随分出ました。日清戦争で在留邦人社会はかなり混乱しました。

日清戦争に敗れた清国は、日本に賠償金を払うためにフランスとロシアから借金をします。その見返りにロシアは清国内を通る中東鉄道建設の権利を得て鉄道の建設を開始しました。満州(中国東北部)と朝鮮半島をめぐる権益で今度は日本とロシアが対立するようになります。

このように東北アジアの情勢が変化するなかで、1899年にウラジオストクで東洋学院(現在の極東連邦大学)が開校され、日本語科ができます。同じ年に日本でも東京外国語学校(現在の東京外国語大学)が独立します。もちろん露語科があります。それまでは東京商業学校(現在の一橋大学)の付属東京外国語学校でした。これは時代に関係もあります。日露関係の陰悪化に備えなければならない、また一方では戦争回避のため関係改善を進めなければならないという議論が起こっていたのもこの時期です。

太田覚眠～日露戦争後の本願寺再興に尽力

1903年に三重県四日市市の法泉寺の住職をしていた太田覚眠が、開教師として西本願寺からウラジオストクに派遣されて来ます。この人は1931年末まで約30年間ウラジオストクで活動続け、在留日本人社会に浦潮本願寺を定着させた最大の功労者です。

ただし、太田覚眠がウラジオにきた直後に日露戦争(1904-05年)が始まり、在留日本人は総引き揚げをしました。戦争開始で本願寺を閉鎖した後、彼はシベリア各地を回り、日本に帰国できなかった人たちを集めて、最終的にはアメリカの赤十字の支援で居留民830余名とともにほぼ11か月後に帰国しました。そして、日露戦争後はすぐにウラジオに渡って本願寺を再興します。

戦争で引き上げていた居留民もまたウラジオストクに戻ってきて、「浦潮ス徳日本人会」が設立されました。日本人会の中には、商業部、医師部、留学生部、漁業部、大工部、鍛冶職部などがあり、在留邦人のまとめ役としての機能を強化しました。また、ウラジオと福井県敦賀の間に定期航路が開設され、日露戦争後は日本とロシアの往来が以前に増して活発になりました。

ちなみに日露戦争の時、1904年3月6日には、日本の巡洋艦5隻がウラジオストクの東海岸沖のウスリー湾から砲撃しますが、ウラジオの港と町を取り囲む要塞・砲台の射程外からの砲撃であったため、金閣湾に面した町の中心部には砲弾が届かず、軽微な被害に終わっています。

国際都市ウラジオストク

日露戦争後、ウラジオストクは国際都市になりました。1910年にウラジオストクには11の領事館がありました——アメリカ、イギリス、ドイツ、ギリシア、イタリア、中国、オランダ、ノルウェー、トルコ、フランス、日本の11か国です。

1912年に敦賀-ウラジオ間の航路が、シベリア鉄道でヨーロッパ方面への国際列車と接続し、これで日本からヨーロッパへ行く最短距離のルートができました。歌人・与謝野晶子が夫(鉄幹)のいるパリに向かったのも、このシベリア鉄道を使った国際列車でした。

当時の写真資料を見ると、日本人の小学生が袴姿で靴を履いていた(笑)、ウラジオストク駅の前で朝鮮人や中国人がたむろしていたりします。ウラジオストクの人口で一番多かったのはもちろんロシア人ですが、ほぼ同数のアジア系外国人がいたと言われています。

1915年、浦潮本願寺建立

日本とロシアの関係が一番良かったのは実は日露戦争後の約10年間なのですが、その中で1914年に第一次世界大戦が始まりました。

西本願寺の布教所は、1896年にセミョーノフスカヤ通り19番地に建物を建ててフォンタンナヤ通りから移ったのですが、ロシアの法律では10年間の使用期限が過ぎると布教所の建物は土地所有者のものになり、日露戦争後にウラジオストクでの日本人居留民の活動が再開されると、新たに本願寺布教所の建設が重要な課題となりました。

西本願寺はウラジオストクに日本式の仏教寺院を建設する計画を立てます。1909年にこの計画はロシア内務省の許可を受け、ウラジオ市会でもアレウツカヤ通りの北端に建設用地を無料で貸与することが決定されたのですが、その後ロシア側から建設中止の命令が出されて紆余曲折を繰り返すことになりました。建設予定地のすぐ近くにロシア正教会の寺院があって「正教寺院の近くに仏教寺院を建てるのはもつてのほかだ」という強い反対があったのが理由ですが、もう一つは軍事的な見地からウラジオストク要塞の反対が強かったのです。建設地は高台にあり、本願寺跡に行けばよく分かりますが、ウラジオの港と市街地を一望のもとに見ることができたからです。



結局、正教会寺院と本願寺の間に緑地帯を設けて仏教寺院が見えないようにすることで妥協するのですが、最終的には第一次世界大戦でロシアと日本が同盟国になったことが問題の解決を早めました。これで決着がついて、アレウツカヤ通りの北端に浦潮本願寺が建設されることになり、1915年5月に起工式が行われました。起工式は西本願寺の大谷光瑞・前法主を迎えて盛大に執り行われました。浦潮本願寺は当時の絵葉書にもなっていますが、非常に大きな建物です。

ロシア革命とシベリア出兵 (1917年 - 18年)

1917年11月に首都ペトログラードで革命が起こりウラジオストクにも波及しましたが、ウラジオではモスクワやペテルブルグのような厳しい対立状態はすぐには起こっていません。ソビエト権力樹立の宣言は行われたのですが、工場の国有化といった急進的な社会主義化政策はまだやらないのですね。というのは、ここには外国の領事館がたくさんあったので、列強諸国の介入は避けたいというのが当初の考えだったようです。

同じ年の12月に、これはもう革命が始まった後ですが、日本語の日刊紙『浦潮日報』が刊行を開始しました。編集主幹は東京外国語学校出身の和泉良之助。当時の在留日本人数は、708戸3289人(居留民会調べ)。届け出のないものが他に約2000人と言われているから、ウラジオに約5000人の日本人が住んでいた計算になります。

ところが、ロシア革命に対して「居留民保護」を理由に、1918年1月に日本軍とイギリス軍がウラジオストクに軍艦を派遣する決定します。これは現地に住んでいる人たちにとっては迷惑な話でした。在ウラジオストク日本総領事も本省に「今派遣すべきではない」と進言しているくらいです。つまり、ウラジオはそんなに混乱してないのですね。日本海軍は、イギリス海軍が軍艦を派遣すると知り、対抗上、それ以前に日本の巡洋艦2隻を派遣します。しかし、連合国が支援しているウラジオストク市会からも抗議され、陸戦隊を上陸させることはできませんでした。4月に日本の石戸商会に強盗が侵入して一人が殺害されるという事件が起こり(石戸商会事件)、それを機に日英の陸戦隊がウラジオに上陸しました。

シベリア出兵(シベリア干渉戦争)が本格的に開始されたのは18年8月で、日本軍、米軍、英軍などがウラジオストクに上陸し、ロシアのシベリア・極東地域に向かいます。日本軍は最大時で7万2000人と一番大きな兵力を投入しました。出兵の名目はロシア国内に取り残されて孤立しているチェコスロバキア軍兵士の救出でしたが、日本側の本音はシベリアに傀儡政権を作って日本の影響下に置くことでした。しかし、そう簡単にはいかない。一時期、シベリア・極東は連合国の支援を受けたコルチャーク政権(白軍)の支配下に入りますが、やがて赤軍が反撃してコルチャーク政権は崩壊します。

シベリア出兵と日本人社会

1920年当時どれくらいの日本人がウラジオにいたか、日本の憲兵隊が調べた調査報告があります。軍人軍属を除く在留邦人数4814人ですが、その内訳は雑貨商618、芸娼妓酌婦572、職工および労働者301、会社員284、料理業273、裁縫洋裁232、...というふうになっています。(憲兵司令部編『西伯利出兵憲兵史』(復刻版)国書刊行会、1976)

結局1920年をはじめにコルチャーク政権は崩壊し、イルクーツク以西はすべてソビエト政権が押さえてしまいました。アメリカ軍は1920年4月に全員撤兵しましたが、日本軍だけが居残ります。

1920年7月から9月までウラジオストクを訪れていた東京外国語学校の教師、八杉貞利の日記にその頃の状況が書かれています。

「浦塩は最早商業全然途絶して、当地にて生活し行き得るのは陸軍用の商品を扱うものだけ...」

少し話を戻すと、20年4月にヴェルフネウージンスクで「極東共和国」の成立が宣言されました。バイカル湖より東を領域とする極東共和国というのは、社会主義共和国ではなく、日本と衝突しないように一応私有財産を認めるブルジョア共和国の形をとった日本に対する緩衝国です。背後にはもちろんロシア共産党とロシア社会主義ソビエト共和国が控えています。日本は極東共和国と撤兵交渉を行うのですが(21

年8月より大連会議、22年9月より長春会議)交渉は決裂し、最終的には1922年10月25日に日本軍は大陸最後の拠点であったウラジオストクから撤兵し、「尼港事件」の保障占領を続ける北樺太に軍を残すのみとなります。1922年11月に極東共和国はロシアソビエト社会主義共和国と合併し、1922年12月にソビエト社会主義共和国連邦(ソ連)が結成されました。ソ連が成立するのは、1917年のロシア革命時ではなく日本軍がウラジオストクを撤兵したロシア十月革命5年後の1922年12月です。

撤兵と日本人社会

日本のシベリア出兵が失敗に終わり日本軍が撤兵することになると、ウラジオストクではもう日本人居留民を護る者がいなくなります。多くの居留民は「居留民保護」を旗印に踏み込んだ日本軍とともに日本に引き揚げざるを得なくなりました。在ウラジオストク総領事の外務大臣宛ての報告書には次のように記されています。(在浦潮領事より内田外務大臣宛(21年9月))

「当管内6千人ノ邦人中直接間接ニ軍関係ノモノ約1千位ハ撤兵ト共ニ自然引揚をナスベキモ、残5千人ノ邦人ハ派兵前ヨリ所謂土着的居留民ニテ其他ハ露西亜向職業者タリ。彼等ヲ日本ニ引揚グルモ生活困難ニシテ...」。居留民の帰国のための補助金の援助を要請しています。

次は新聞記者として滞在していた大竹博吉(ナウカ書店の創立者)の回想録です。

「在留邦人の殆どは生命が危ないぞという軍のかけ声と援助のもとにほとんど引き揚げてしまった。...私はロシア軍の入ってくる歴史的絵画のような光景を、妻と共にわが家の窓から見る事ができた。...スヴェトランスカヤ通りを夜を徹して、ゴロゴロガラガラ、日本側から16門しかないといわれていた砲が200門、空には飛行機がビラをまきちらしていた」

また戸泉米子さんの著書『リラの花と戦争』(1998年)にはこう書いてあります。

「最後の引揚げ船がでる前日、総領事館の近くで会った『浦潮日報』社長夫人はこう語った。「私たち夫婦の他に100人以上の同胞が残っているのよ!」「夫人に誘われて、その籠城先も訪れた。入り口に「浦潮日報社」「〇〇クリーニング社」「〇〇写真館」等の看板が立ち並び、一家に一部屋ずつが与えられて、...」

次は1923年9月15日の『敦賀新聞』の記事です。敦賀新聞というのは今はもうありませんが、ウラジオからみんな船に乗って敦賀に帰ってくるわけですから、当時のロシア事情が非常に詳しく載っています。

「浦潮居留民会の調査によると8月末現在居留民は男429人、女293人、戸数184戸、人口732人、最も多数なるは会社銀行員39戸162人で其の次に多いのは芸妓酌婦、其の他は30名を出ない」

戸泉さんの本には、「しかしその頃、まだ浦潮斯徳には日本人経営の会社(写真屋、旅館、貿易会社、商船会社、朝鮮銀行、そして隠れて経営している遊郭等)が残っていた。また日本人で職業不明の人も何人か残っていた。」と書かれています。

つまり、日本軍が撤兵した後も、700~800人くらいはまだウラジオストクに残っていたということです。全員が帰国したわけではなく、かなりの日本人が残っていました。

日ソ国交樹立~日ソ基本条約(1925年)

シベリアからの撤兵後、日ソ関係を修復するために、当時の東京市長・後藤新平が動きます。中国駐在ソ連全権代表のヨッフエを1923年1月に「病気療養」の名目で私的に日本に招待し、交渉を始めました。2年間の交渉を経て、1925年1月に北京で日ソ基本条約が調印され、ソ連と日本との国交が樹立されます。これでウラジオストクに日本総領事館が再開することになりました。

基本条約に基づいて、1927年に沿海州の森林利権が日本に提供され、1928年には日ソ漁業条約が調印されて、日ソ関係は回復に向かいました。この頃のウラジオの人口は10万4000人です。ロシア人が60.7%、中国人26.4%、朝鮮人6.4%、ウクライナ0.6%となっていました。正確な数字は残っていませんが、ウラジオには数百人の日本人が住み続け、浦潮本願寺も存在し続けたわけです。

浦潮本願寺閉鎖(1937年)

ところが、1931年の満州事変で日本が中国への侵略を強めると、日ソ関係は急速に悪化していきました。同じ年に浦潮斯徳日本小学校が閉鎖されます。30年にわたって開教使・開教監督としてウラジオストクで活動してきた太田覚眠も市の居住許可証が交付されなくなったため、31年12月に帰国しました。しかし、浦潮本願寺には住職の戸泉憲龍と妻の米子さんが残りました。

この時代のソ連はスターリンの支配体制が確立する時期で、ロシア正教をはじめ宗教活動への弾圧が強化され、カトリック教会やプロテスタント(ルター派)の教会も閉鎖されていて、ウラジオストクで存続していた宗教施設は浦潮本願寺のみになっていました。これは、浦潮本願寺の布教活動があくまでも日本人居留民を対象としたものであることとはいえ、当然、ソ連の対日政策が影響しています。

日本人が最終的にウラジオストクから退去させられるのは、1936年の日独防共協定の締結によってでした。これで日ソ関係は決定的に悪化し、日本人全員に退去命令が出され、1937年に浦潮本願寺は閉鎖されました。こうして浦潮本願寺は50年の歴史に幕を閉じました。

関連資料: 藤本和貴夫「浦潮本願寺について」(ハルビン・ウラジオストクを語る会『セーヴェル』27号。2011年3月)

JICからお知らせ

JIC インフォメーション電子化 メール配信に移行しました！

JIC インフォメーションは 1986 年の発刊以来、本号で通算 214 号となります。

この間さまざまな困難がありましたが、多くの方々の温かいご支援・ご協力を得て、日本とロシアを中心とする市民交流の情報誌として発行を続けてまいりました。

これまで紙印刷の本誌を読者の皆さまに郵送または宅配メール便で送ると同時に、ホームページに掲載してその URL を電子メールで送るメルマガ形式で JIC インフォメーションをお届けしてきましたが、今年の 4 月号以降は電子メールでの配布を基本として、紙印刷のインフォメーションの郵送を取り止めさせていただきます。

引き続き JIC インフォメーションをご希望で、まだメールアドレスの登録をいただいていない方は、以下のアドレスに「JIC インフォメーション希望」とお知らせいただきたく、お願いいたします。

⇒ アドレス : jictokyo@jic-web.co.jp

国際親善交流センター (JIC)

◆◆編集後記◆◆

▼新型コロナが止まりません。二回目の緊急事態宣言が明けたと思ったら、今度は大阪、兵庫、宮城に続いて東京、京都、沖縄に「まん延防止」重点措置が適用されました。4 月 12 日から 65 歳以上の高齢者を対象にワクチン接種が始まるとはいえ、日本の対応は遅く欧米に比べて周回遅れの様相を呈しています。▼夏の東京オリンピックは開催にむけて聖火リレーが始まっていますが、五輪後にはコロナが終息し正常化するだろうという期待は実現しそうにありません。▼困難な時期ではありますが、ジェーアイシー旅行センターは懸案の「代表交代」を決定し、杉浦信也・新代表を中心に一丸となって会社の維持・再建に取り組むことになりました。コロナ後を見据えて、ロシア情報、旅行・留学情報を蓄積し、今できることを確実に実行して、ひるむことなく新企画、新事業にも取り組みます。▼JIC を支えてくださる皆様のご支援、ご声援が頼りです。今後ともよろしくお願いいたします。(F)

＊ ＊ JIC のロシア語留学・研修 ＊ ＊

30 年間の実績「だから、JIC のロシア語留学」

JIC ロシア語留学研修は、JIC 国際親善交流センターが日本で最初に旧ソ連・ロシアの諸大学と直接契約により開始した私費留学システムです。この 30 年間で JIC がロシアに送り出した留学生は長期・短期合わせて 3,800 名以上にのぼります。

安心の現地アフターケア

留学中はできる限り自分のことは自分でやっていただくのが語学力上達の道です。しかし、一人ではどうしても解決できない大学との交渉ことや、緊急事態の際の連絡対応など、留学される皆様のバックアップのために、JIC では各受入機関と緊密な連絡体制を整えています。

ロシア語長期留学 4 月生・募集中



オンライン
相談 受付中！

期間：2021 年 9 月 1 日より 10 ヶ月

締切：2021 年 6 月 10 日

モスクワ国立大学 725,000 円(授業料 10 ヶ月)

サンクト・ペテルブルグ国立大学 790,000 円(授業料 10 ヶ月)

ゲルツェン教育大学 752,000 円(授業料 10 ヶ月)

ウラジオストク極東連邦大学 352,000 円(授業料 10 ヶ月)

ミンスク国立言語大学 344,000 円(授業料 10 ヶ月)

※上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金および取得手数料などがかかります。

◆JIC ロシア留学デスク◆

ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に応じます。

お気軽にお越しください。

東京事務所 平日 9:30-18:00 03-3355-7294

大阪デスク 平日 9:30-16:00 06-6944-2341

※留学相談は、必ず事前に予約してお越しください

外国人のためのロシア語検定(TPKH) 練習アプリのご案内

JIC が提携するモスクワのロシア語センター GRINT が外国人のためのロシア語検定 (TPKH) の初級・基礎・第 1 レベル (大学入学の最低レベル) に対応する練習問題と模擬テスト、合格のための練習アプリを発表しました。

現在、AppStore および Google Play で無料ダウンロードできます。できるだけたくさんの方のロシア語学習者の皆さんに使っていただき、是非、使い勝手や改善点、感想などを知らせてほしいとのこと。是非、ご協力ください。

アプリの詳細 (英語) <http://russian-language.ru/>

アプリは SEMESTERRUS で検索、ダウンロード可です。